

## ごあいさつ



平素より大分みらい信用金庫に格別のご愛顧を賜り、厚くお礼を申し上げます。

当金庫は「この地域に根ざし、未来を拓く」を経営理念として大正11年4月に創業し、今年創立93周年を迎えました。これもひとえに会員ならびに地域のみなさま方の温かいご支援、ご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、平成26年度の世界経済は、米国を中心に景気は緩やかに回復しましたが、欧州のデフレ懸念、原油価格の急落、中東諸国を巡る地政学的リスク等も顕在化して、先行きの不透明感が拭えない状況が続きました。

国内では、年度前半は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動がありましたが、後半は日銀の追加金融緩和や原油価格下落の追い風等もあり、デフレ脱却に向けた足がかりを掴んだ一年となりました。

また、県内においては、平成26年度から平成27年度にかけて、東九州自動車道の県内全線開通、JRおおいたシティ(駅ビル)の開業、大分県立美術館(OPAM)の開館、JRによるデスティネーションキャンペーン(国内最大規模の観光キャンペーン)など明るい話題が豊富であり、景気回復に対する期待感が高まる年となりました。

こうした中、平成26年度から長期ビジョン「磐石な100年金庫」構築の第2ステージとなる「第2次『絆の強化』3カ年計画」をスタートしました。平成26年度は、事業先の支援態勢強化の取り組みとして「企業サポート部」を、個人先への支援態勢強化として女性職員による「ライフサポートチーム」を新設しました。また、高齢者の金融犯罪被害の防止を目的とした「暮らし安心ネットワーク」事業の継続、県下3金庫統一のマイカーローンキャンペーンの推進、信用金庫のネットワークを活かしたお客様旅行等を実施しました。

このような事業推進により、平成26年度の業績は、貸出金利息等の資金運用収益は減少しましたが、経営支援態勢の強化やコストの削減に努めた結果、当期純利益は対前期31.14%増加し、8億1千4百万円となりました。また、自己資本比率は13.83%となり、引き続き安心してお取引いただける水準を確保しております。

今後も「磐石な100年金庫(=伝統と地域に根ざし、継続的に発展する信用金庫)」の構築に向け、健全経営に徹し、当金庫と地域のみなさまとの絆をさらに強固にできるよう努めてまいりますので、ご支援お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月

理事長 関 啓 二